

# 福島県会津少年自然の家

## 第1節 概 要

会津少年自然の家は、恵まれた自然環境の中で、生き生きとした野外活動と集団宿泊生活を体験することにより、心豊かで心身ともに健全な少年の育成を目的として、昭和56年4月に開所された社会教育施設である。

また、少年自然の家は、学校教育・社会教育・家庭教育がもつそれぞれの教育機能を統合し、効果的に補完するための教育施設であり、次のような教育目標を掲げ、その達成に努めてきた。

### 教育目標

- 「心豊かで、自ら生活を創造し、実践するたくましい少年を育てる。」
- (1) 自然に親しむ活動を通して、自然の恩恵にふれ、自然を愛する心や敬けんの念を育てる。
  - (2) 集団宿泊生活を通して、友愛の心を深め、自律心、協調心を養い、規律を守り、責任を重じ、進んで奉仕する態度を育てる。
  - (3) 野外活動を通して、たくましい体力と根性を育てる。

## 1 運 営 委 員 会

所長の諮問機関である運営委員会の委員は、次のとおりである。

氏 名	役 職 名
議 長 山 口 林 助	会津坂下町長
副議長 佐 藤 聰	福島県市町村教育委員会連絡協議会常任委員（会津坂下町教育委員会教育長）
和 田 洋 子	福島県議會議員
栗 城 永 好	福島県小学校長会（両沼小学校長会会長）（会津坂下町立坂下小学校長）
阿 部 制	福島県中学校長会（両沼中学校長会会長）（会津坂下町立第一中学校長）
平 山 恒 雄	福島県P T A連合会副会長（会津若松市立第三中学校P T A会長）
佐 藤 毅	福島県公民館連絡協議会副会長（会津若松市中央公民館長）
長 谷 川 四 郎	福島県子どもも会育成会連合会顧問（社会福祉法人会津児童園長）
照 井 藏 人	会津美術協会会長（漆芸家）
堺 百 人	喜多方市子どもも会育成会長（農業）

- (1) 第1回運営委員会（平成3年7月31日開催）
- (2) 第2回運営委員会（平成4年2月13日開催）

## 2 平成3年度重点目標と成果

### (1) 集団宿泊生活の充実を図る

- ① 利用団体の主体的な活動を推進するため、引率指導者研修会、事前打合せ会及び実地踏査等を通して指導力の向上を図った。また、利用のねらい及び施設の特色や機能を生かし、ゆとりあるプログラムを編成して充実した活動ができるよう指導援助、助言に努めた。
- ② 「利用の手引」や指導資料の見直しと改善に努め、利用団体の活動が効果的にすすめられるよう推進した。
- ③ 所利用のきまりの原則をふまえつつ団体の実態や目的に応じ弾力的な利用を推進して、ゆとりあるしかも自主的・自律的な研修ができるよう援助と指導に努めた。所員と引率指導者との連携を密にしてきた。
- ④ 各学校、各種団体の実態や利用のねらいに即して、各種活動についての専門的指導者の活用に努め、特に冬季のスキー実技研修の充実を図ることができた。
- ⑤ 県教育行政機関や市町村教育委員会、公民館、及び小中養護学校等との連携の強化に努め利用の促進を図った。

### (2) 施設・設備の充実

- ① 野外活動の充実を図るため、活動コースの点検、整備に努め、利用者が安全に活動できるように努めた。
- ② フィールドアスレチックの改修5ヶ年計画の第5年次として、5つのポイントを改修した結果、安全で充実した楽しい活動ができるようになった。
- ③ 室内活動、野外活動の充実を図るために、クラフト（レザークラフト、ペーパークラフト）の工夫、ペタンク等の室内活動の充実を図り、リングを用いた輪なげ形式のU F O ゴルフ活動の推進に努めた。
- ④ 活動コース周辺及び活動エリア内の植物への関心、自然への関心を深めてもらうための説明机を設置し、利用者から好評を得た。また、つどいの広場、展望台に山の名称案内板を設置した。

### (3) 広報活動の強化

- ① 利用の促進拡大を図るために、所報、利用申込要項広報ちらし及び主催事業案内等を関係機関、団体に配付し、施設への関心を高め理解と協力が得られるよう努めた。
- ② 施設見学、実施踏査、利用相談等を奨励し、施設への理解と関心を高めるよう努めた。

### (4) 主催事業の効果的運営

- ① 当施設を利用する学校団体及び社会教育団体の指導者を対象に効果的な施設の利用と充実した活動ができるよう集団宿泊指導者研修会を開催し、指導力の向上に努めた。
- ② 自然の中での生活体験を通して、少年のたくましい心身を培う「自然に親しむ少年のつどい」は、参加者自らの創意と協力による手づくりの「すみか」での原始生活体験や16キロメートルの塩の道（旧越後街道）を歩く等の自然体験を通して、たくましい心と体を育てるととも